

平成 29 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ホップにおけるアサノミハムシの被害と防除対策		
[要約] アサノミハムシはホップの萌芽期から見られ、初期生育不良の原因となるが、カルタップ水溶剤、ピフェントリン水和剤で防除できる。					
キーワード	ホップ	アサノミハムシ	防除	環境部 病理昆虫研究室	

1 背景とねらい

アサノミハムシはホップの萌芽期から見られ、多発すると萌芽不良や枯死株が発生するなどの被害となる。しかし、本種の生態は不明な点が多く、防除法も明かとなっていない。そこで、本種の加害による初期生育への影響を調査するとともに、薬剤の効果を明らかにし、防除対策を提示する。

2 成果の内容

- (1) アサノミハムシは萌芽期初期から加害し（図1）、防除が遅れると本種の加害により初期生育が著しく不良となることがある（表1）。そのため、本種を圃場で確認したら直ちに防除を行う。
- (2) カルタップ水溶剤（商品名：パダンSG水溶剤）、ピフェントリン水和剤（商品名：テルスター水和剤）はいずれもアサノミハムシに高い効果を示す（表2）。

3 成果活用上の留意事項

- (1) パダンSG水溶剤、テルスター水和剤はともにホップに作物登録があるが、アサノミハムシに適用がない。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等
県内各地のホップ農業協同組合および病害虫防除所などの指導機関
- (2) 期待する活用効果
ホップ栽培において、防除計画策定の参考となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(402) 新農薬の効果検定と防除指針作成 [H9-H30/民間委託]

6 研究担当者

大友令史

7 参考資料・文献

なし

8 試験成績の概要（具体的なデータ）



図1 アサノミハムシ（左）と被害芽（右）

体長2～2.5ミリ。同属のナトビハムシに酷似する。成虫で越冬し、ホップが発芽する4月中旬頃、圃場に侵入、芽を加害する。夏には新成虫が羽化する。新成虫は柔らかい葉を好んで食べるが、生育したホップ葉への加害は大きな被害とはならない。平成4年8月に北上市岩崎で毬花が食害された報告がある（未発表）。

表1 アサノミハムシの被害

萌芽初期(4月中旬)	萌芽期(4月下旬)	選芽時(5/1)の芽の長さ ※	備考
加害なし	加害なし	10.3cm	表2 アサノミハムシ防除試験のパダンSG水溶剤処理区1の5株を調査
加害あり 〔4月21日 9頭/5株〕	加害なし	8.9cm	表2 アサノミハムシ防除試験のテルスター水和剤処理区1の5株を調査
加害あり 〔4月21日 5頭/5株〕	加害あり 〔4月24日 25頭/5株 4月27日 45頭/5株 5月1日 21頭/5株〕	5.9cm	表2 アサノミハムシ防除試験の無処理区1の5株を調査

※ 選芽時の芽の長さは、各区5株について最も長いものから3芽(計15芽)の長さを計測し平均したもの

表2 アサノミハムシに対する防除効果

供試薬剤	希釈倍数	反復	調査株数	散布前(4/21)		散布3日後(4/24)		散布6日後(4/27)		散布10日後(5/1)		被害
				虫数 (頭/株)	防除価	虫数 (頭/株)	防除価	虫数 (頭/株)	防除価	虫数 (頭/株)	防除価	
パダンSG水溶剤 (カルタップ75%)	1500倍	1	8	0	0	0	0	0	0	0	—	
		2	7	3.6	0	0	0	0	0	0		
		3	8	2.9	0	0	0	0	0.1	0		
				23	2.1	0	100	0	100	0.0		98
テルスター水和剤 (ピフェントリン2.0%)	1000倍	1	7	1.3	0	0	0	0	0.1	0	—	
		2	8	1.4	0	0	0	0	0	0		
		3	7	2.6	0	0	0	0	0	0		
				22	1.7	0	100	0	100	0.0		98
無処理		1	6	0.8	4.2	1.3	0.6	0.6	0.6	0.6	—	
		2	6	2.3	2.5	3.7	2.2	2.2	2.2	2.2		
		3	9	2.2	6.3	7.1	2.1	2.1	2.1	2.1		
				21	1.8	4.3	4.0	1.6	1.6	1.6		

試験の概要：

(試験場所) 岩手県遠野市青笹町 現地農家圃場

(耕種概要) 品種：キリン2号 露地栽培 栽植距離：株間1.5～3m×畦間5m

(処理方法) 平成29年4月21日(萌芽期)に、所定濃度の薬液を、背負式噴霧機を用いて、1区4リットル(0.44～0.67リットル/株)の割合で散布